

共通テスト「リスニング」の指導 —今、できること

武藤克彦



2021年1月より「大学入学共通テスト」（共通テスト）が実施されます。「リスニング」に関しては配点の倍増だけでなく、英語音声の聞き取り（読み上げ回数の減少、様々な英語発音）、設問内容・形式（考えさせる問題、正解を複数選ぶ問題）、トピック（より現実的・社会的な内容）などにおいて大きな変化を遂げているのは周知のとおりです。これらに対応するには授業活動において(1)実際の言語使用場面を反映した視聴覚教材を適度に使用しつつ、(2)教室と実社会を橋渡しするような実践的活動に取り組ませ、(3)知的好奇心と感情の両方を呼び起こす質問を投げかける指導が期待されます（武藤，2020）。翻って、実施まで3か月を切った今、必要なのは「短期間で可能な指導」ではないでしょうか。共通テスト「リスニング」は、大問を追うごとに徐々に高度なリスニング力が求められる形式です。したがって、これを踏まえて以下のように大問を分類し、習熟度別にそれぞれに有効な指導や対策を提案してみたいと思います。

初級（CEFR A1～A2：英検3級～準2級程度）

→ 第1問・第2問

中級（CEFR A2～B1：英検準2級～2級程度）

→ 第3問・第4問

上級（CEFR B1：英検2級程度）

→ 第5問・第6問

■初級者向けの指導

リスニングを苦手とする初級者には最初の2つの大問で確実に得点できるリスニング力をつけることが急務です。

第1問は身近な内容に関する短文の聞き取り問題です。イラストの有無にかかわらず、ここで問われるのは「英語の基礎知識」と「発話の意図や状況を把握できる聴解力」です。音声を紹介して英語の基礎を定着させる指導には「部分ディクテーション」があります。生徒の苦手とする項目（語彙、文法、発音）のひとつにフォーカスし、その部分を空欄にした英文を聞かせ、ディクテーションさせます。内容を十分に理解させた後、「オーバーラッピング（聞き読み）」を行います。ディクテーションで用いた音声の流れ、英文を見ながら聞こえた音声に重ねて発声するトレーニングですが、その際には必ず発話の意図や状況をイメージさせながら行うよう指導するのがポイントです。

第2問は、身の回りの事柄に関する対話文を聞き取る問題（場面情報とイラスト付き）で、問われるのは「情報を整理しながら聞き取れる力」です。概して一方の発言を相手が Yes/No, Actually など情報追加する流れです。イラストとスクリプトを同時に示しながら、どの発言でどの選択肢が消えるのかを丁寧に説明してあげると、このパターン（消去法）を目で見えて理解することができます。加えて、第2問での得点に必要なのは roller coaster や That's sounds good! のような「日常的に使う語彙」と「平易な会話表現」の知識です。これらはリスト化してまとめて教えるのではなく、対話文のスクリプトを通して、都度確認するのが良いでしょう。加えて、ペアワークを通して対話文を発話させるのは音声認識力の発達につながります。限られた時間でもぜひ取り

入れたい活動です。

■中級者向けの指導

第3問以降は音声読み上げが1回になるので、第1問と第2問に過不足なく対応できる生徒が対象になります。

第3問は対話文を用いたリスニング問題（場面情報と質問文付き）で、「対話の概要を理解できる力」が求められます。対話文には or や but, instead of ... などで、2つの事柄を並列や逆接で述べる特徴が見られます。確実な正解には事前に「質問文を速読できる力」が必須ですが、速読では質問文の趣旨は記憶に残りません。「何を聞き取るべきか？」を瞬時に把握するには、What do the two people agree about?のように「疑問詞＋主語＋動詞」に印をつけ、「何を」「2人」「賛成する」のように3語（または4語）セットで意識的に頭に留めるトレーニングをさせます。逐語訳より記憶の負担が軽減されるので、聞き取ることに意識を集中できます。

第4問は[A]と[B]ともにモノローグを聞き取る問題ですが、英語の分量も増え、複数の話者（アメリカ英語以外の発音）が登場します。第4問では「出来事を時系列に理解できる力」（[A]の問1）と「詳細情報を聞き取れる力」（[A]の問2と[B]）が試されますが、重点的対策が必要なのは後者です。両題とも表が与えられるので、事前にしっかり目を通して理解（項目の意味など）させる習慣をつけさせます。その後、聞き取った情報を表にメモしていく練習をさせます。本番の音声は1回ですが、[A]の問2については1文ごと、[B]は話者ごとに音声を止めて表に記入させる時間を設けます。仕上がりとして、ひとりの話者を選び、発言内容をシャドーイングさせる指導を行うことでスピードに慣れさせることができます。

■上級者向けの指導

最後の2つの大問は、英語の分量もそうですが、トピック（アカデミック）の点でも負荷が大きいです。短期間では指導や対策の効果を担保で

きないので、時間がない場合は割り切った指導もやむを得ないです。煎じ詰めれば第5問の表を読み取る、メモを取るスキルは第4問の、第6問の対話文の聞き取りは第3問の応用と見なせるので、そちらの学習成果次第ですが太刀打ちできないわけではありません。

第5問は大学講義の聞き取り（前半）と講義のまとめ（後半）から成る問題で、「講義を聞いて概要と要点を理解する力」が問われます。講義形式に慣れさせるには様々な類似問題を用いた練習以外ありません。現時点で入手できる過去問や予想問題は限られるので、他の英語民間試験（TOEFL や IELTS）の講義形式の問題（の一部）などを活用するのも一案です。共通テストよりも難易度が高いので上級者にとっても適度な手ごたえがあります。ただし、問題形式は異なるので、共通テストと同様の問題を準備した方が対策の観点から効果的です。

第6問は日常的な話題に意見を言い合う2人の対話(A)と社会的話題に関する質疑応答(B)を聞き取る問題です。両題とも対話文形式なので上級者は第5問ほど困難を感じないでしょう。ただし、Bには話者の立場を問う問題が出題されるので、I'm not convinced. といった発言から、話者がどちらの立場で発言しているのかを確認して、質疑応答（ターンテイキング）の仕組みを理解させておきましょう。

ここでは短期間であることを前提に指導と対策について述べましたが、生徒が将来必要となる本質的なリスニング力の育成のためにも、冒頭で述べた3つの視点を踏まえた活動もどこかで取り入れたいものです。

参考文献

武藤克彦（2020）「変わりゆく大学入試のリスニング 第1回：大学入学共通テストの「リスニング」と第1問」．『英語教育』2020年4月号．大修館書店．

（むとう かつひこ・東洋英和女学院大学講師）